

[研究ノート]

ダンスが拓くソーシャル・インクルージョンの地平 (2) —信愛オリジナル・コミュニティダンス 「ココ、カラダ。」の振付プロセスに着目して—

新 井 真 実

Development for a Unique Approach to the Horizon
of Social Inclusion with Dance(2)
-Aim to a Choreography Process of "KOKO-KARADA"-

ARAI Mami

In recent years, the importance of the community art or social engaged art is increasingly pointed out. However, its systematized teaching methods have not been established yet.

Community dance belongs to the community art and social engaged art. Everyone involved in the community dance. It doesn't matter with or without dance experience, gender, social status and disabilities. Through its efforts, the students transformed perspective on dance and body expression. Further, they may have a new perspective on society itself.

Therefore, I tried the practice of active learning about community dance that focuses on social inclusion as the initial stage for the students to break away from the mere conventional education of dance. The following research suggests the possibility of local participation in the nursery training process.

Key words: Community Dance, Social Inclusion, Active Learning, Local Participation,
Choreography Process

キーワード: コミュニティダンス, 社会的包摂, アクティブ・ラーニング, 地域参画,
振付プロセス

1 はじめに

からだあそび研究会は、久留米信愛短期大学 幼児教育学科において発足して2年目の研究会である。初年度である平成28年度、学科の専門性に基づいたオリジナルのコミュニティダンス考案とその普及を目指す<Project HOTM!X(ホトムクス)>が立ち上がった。この取り組みは、「ダンスの力で、ひとを、まちを、元気に!」をスローガンに掲げ、平成28年度<まちなか万博!>事業(主催:株式会社ハイマート久留米 後援:久留米市久留米商工会議所)として採択され、そして生まれたのが、信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ。」(作詞:新井真実 作曲:川原一紗 振付:久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科 からだあそび研究会 振付監修:新井真実)であった。

身体にまつわる慣用句を用いた独特な歌詞と、ゆったりとしていながら耳に残るサウンド、そして自由度の高い振付に独自性を支えられたこのナンバーは、中心市街地でのフラッシュモブや、ミュージック・ビデオの制作・配信など、学生の現代的な感覚を活用した形で発信をスタートした。そしてこれら取り組みは、学生が考案した“元気ダンス”による“まちおこし”として、メディア等にも取り上げられた。

このような初年度の実績の上で、平成29年度は、自治体や各種団体からイベント等への招聘・依頼をいただくことが増え、学生たちはそれらの機会に臨むプロセスを積み上げる中で、コミュニティにおけるダンスの在り方について体感することとなった。そして同時に、初年度には振付のなされていない楽曲中盤以降の振付に挑むことを通し、協働と創造の体験を重ねることとなった。

2. 問題意識

コミュニティダンスとは、ダンス経験の有無・年齢・性別・障害などに関わらず、「誰もがダンスを創り、踊ることができる」という考えのもと、アーティストが関わり、“ダンスの力”

を地域社会の中で生かしていく活動である。いま、教育・福祉・医療・まちづくりなど社会のさまざまな場で、“ダンスの力”を活かそうとする動きが広がりつつある。また同時に、それらの現場で活動するアーティストや人材が必要とされている^{註1)}。

このような社会のニーズと学生たちの思いから、本研究会では<Project HOTM!X(ホトムクス)>を立ち上げ展開しているが、本稿では、平成29年度の活動概要を振り返ると共に、特に学生たちによる「ココ、カラダ。」の振付課程に着目することで、コミュニティダンスの教育的効果の一端を探るものとする。

3. 事業概要と目的—「Project HOTM!X(ホトムクス)」とは—

本事業は、研究会の専門性を生かし、産後ママと赤ちゃん、子ども、お年寄りまで無理なく楽しめるダンスを考案し、これをツールとしたダンスキャラバン(普及活動)、及びフラッシュモブ(路上イベント)を実行する。これにより、まちなかで様々な市民が出会い、つながることによる、中心市街地の新たな魅力の発見と、賑わい創出を狙うものであった。

この事業アイデアは、平成29年度<まちなか万博!>(主催:株式会社ハイマート久留米 後援:久留米市 久留米商工会議所)採択事業に選ばれ、信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ。」が生まれた。

そして平成29年度には、地域でできる思いやり活動(地域の子どもや高齢者、障害者等が抱える社会的課題の解決のための支援活動や啓発活動)として、<久留米市キラリ輝く市民活動活性化補助金事業>に採択され、より多様な市民へと“ひらかれた健康教育”という視点をもちながら、展開することとなった。

4. 信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ。」とは

作詞 新井真実

作曲 川原一紗

演奏 音の和 music

振付 久留米信愛女学院短期大学 幼児教育学科
からだあそび研究会

振付監修 新井真実

(1) 「ココ、カラダ。」のコンセプト

- ・対象年齢 0 歳 -100 歳、みんなのダンス。
- ・だれも無理しないで、ココロほぐし、カラダはずむ。
- ・みる人とみられる人をわけない、つながるダンス。
- ・劇場でもスタジオでもない、まちなかがステージ!

(2) 詞^{註3)}のコンセプト (作詞: 新井真実)

- ・カラダの動きを引き出すコトバ。
- ・ココロの動きを表すコトバ。
- ・ココロとカラダの間にあるコトバ。
- ・幼い子は幼い子なりに、大人は大人なりに想像する。
- ・コトバの意味が、カラダの中でココロの中で、変化しつづける。

作詞に当たって筆者は、身体にかかわる慣用語(「カラダ言葉」)を用いた歌詞とすることを発想した。そうすることにより、子どもは子どもなりに大人は大人なりに、さまざまな人が自分らしく、イメージ豊かに身体を動かすことができ、かつ長く楽しめる曲になると考えたからだ。踊る度に、言葉の意味やイメージが心の中で少しずつ変化し、身体の動きに反映されていく面白さを狙った。

そしてこのコンセプトは、平成29年度新たに多様な対象者に向けたワークショップやイベント等を行う中で、大変有用かつ汎用性の高いものであることを実感することとなった。つまり、対象は乳幼児とその保護者、小学生、現役保育

者、日中働く一般女性(30代~60代位)など多岐に渡ったが、どのような対象と共に実践する場合にも、それぞれがそれぞれの視点や角度からこのダンスを咀嚼し、イメージ豊かに無理なく運動を楽しむことを可能にしたと考えられる。また同時に、参加者同士のゆるやかな連携を助けるものとなり得ることとなるのが、参加者の感想等から伺えた。

(3) 音楽^{註4)}のコンセプト (作曲: 川原一紗)

演奏: 音の和 music)

- ・とぼけた感じ、ぷっと吹き出す、脱力感。
- ・ほっとなごむ、でも、通り過ぎないクセの強さも。
- ・商店街のスピーカーれるBGMが突然この曲に切り替わったときの意外性。
- ・振付は、その場でもわかる。だから、1フレーズを2回繰り返し。

音楽は、上記コンセプトを具現化できる作曲家・演奏家として、地元ゆかりのある音楽ユニット「音の和 music」(熊本県玉名市在住)に依頼したものであった。その後、楽曲は大学ホームページから自由にダウンロードできる仕組みをつくり、楽譜も必要に応じて配布することを広報した。これにより「ココ、カラダ。」は多様な場面で活用されることとなり、特に、保育の実践に活用したいとの声が多く聞かれ、実際、久留米市内の保育園では身体表現あそびのツールとして、「ココ、カラダ。」が活用されている。

(4) ミュージック・ビデオ(第2弾)^{註5)}のコンセプト

平成28年度に制作したミュージック・ビデオ(第1弾)^{註6)}の主旨は、「ココ、カラダ。」を「発祥の地久留米のランドマーク的スポットで踊る」また、「さまざまな年齢・性別・職業の人々が共に踊る」その様子を映像作品にすることで、このダンスのアイデンティティでもある、「ご当地性」と「多様性」を視覚的イメージとして伝え、普及させることにあった。

平成29年度、新たに制作した第2弾では、曲

のイメージをより奥行きと動きのある映像作品として表現する目的で制作した。「ココ、カラダ。」のほのぼのとしていながら、少しシュールな世界観とともに、学内の様々なスポットで踊る動物たち(学生たち)の姿が、多彩なカメラワークで効果的に演出されており、第1弾とは一味ちがったオリジナリティが感じられる仕上がりとなっている。

(5) ダンス・ビデオ(全編収録・振付解説付き)
註7) のコンセプト

平成29年度のもう一つの取り組みとして制作したダンス・ビデオでは、“あたま”から“あし”まで16パーツの全編振付を、解説とともに確認することができる。振付の習得に特化した教材的な映像であり、カメラは全編に渡り据え置きで撮影している。そして、平易かつユーモアの感じられる解説文をフレーズ毎に作成し、歌詞と合わせてテロップで挿入した。身体にまつわる慣用語とその意味にリンクした動きの連なりを、年齢、性別、障害や経験の有無に関係なく、多様な市民にひらき、無理なくゆったりと感じ、味わってもらえるづくりを目指した。またDVD版では、身体部位毎にチャプター分けをして収録することにより、教材としてより活用しやすい構成とした。

尚、2作品の撮影・制作は、前作につづきRANGE picture 仲朝芳氏と、更に、今回はキ

ャクターデザイン・アニメーションをDICTOM DESIGN 竹藤 智弥氏に依頼した。学生たちの動きを、オリジナルキャラクター「シンくん」と「アイちゃん」が、運動時に意識する身体部位を示すことで補完している。また「ココ、カラダ。」のゆるりとしたダンスに、地元久留米在住の若手クリエイターのセンスが寄り添うことで、“ぷっとふきだす ほつとな ごむ でもクセのある”「ココ、カラダ。」の世界観が、印象的に表現されている。

【撮影の概要】

①撮影日：平成30年1月22日(月)12時頃～17時頃

出演者：からだあそび研究会メンバー

ロケ地：久留米信愛女学院短期大学 構内

内容：学院内各所でのグループ毎、及び全員でのダンスシーン 他

②撮影日：平成30年1月23日(火)12時頃～17時頃

出演者：からだあそび研究会メンバー

ロケ地：久留米信愛女学院短期大学 構内

内容：学院内各所でのグループ毎、及び全員でのダンスシーン 他

5. 主な活動プロセス

活動日(時期)	活動内容	備考
平成29年 4月～5月	<SORA-IRO 広場4周年感謝祭> に向けての準備	準備内容： ・「ココ、カラダ。」既存振付の練習 ・MC等進行の計画・練習 ・衣装の計画・準備
5月3日	<SORA-IRO 広場4周年感謝祭> ステージゲスト出演	上演内容：「ココ、カラダ。」ステージパフォーマンス及びワークショップの実施 会場：SORA-IRO 広場 (久留米岩田屋屋上)
8日17日	<久留米まちゼミ Kids> (主催：久留米商工会議所 後援：久留米市 久留米商工会議所) ダンス and からだあそびワークショップ 実施	講座内容： ・からだほぐし ・からだあそび ・「ココ、カラダ。」 会場：ほとめきサロン (六ツ門)

活動日(時期)	活動内容	備考
8月18日	<久留米まちゼミ Kids> (主催：久留米商工会議所 後援：久留米市 久留米商工会議所) ダンス and からだあそびワークショップ 実施	講座内容： ・からだほぐし ・からだあそび ・「ココ、カラダ。」 会場：ほとめきサロン (六ツ門)
9月～10月	<セーフコミュニティフェスタ>に向けてのパフォー マンス準備	準備内容： ・オープニング“ラインダンス”(新井振付) 練習 ・「ココ、カラダ。」続編振付・練習 ・MC等進行の計画 等
10月22日	<セーフコミュニティフェスタ> ステージパフォーマンス ゲスト出演 —※台風によりイベント中止—	会場：久留米シティプラザ 久留米座
11月12日	久留米信愛女学院短期大学学園祭<信愛祭>にてス テージパフォーマンス	上演内容： ・オープニング“ラインダンス”(新井振付) ・「ココ、カラダ。」続編披露 ・エンディング (学生振付)
11月15日	<久留米まちゼミアフター5> (主催：久留米商工 会議所 後援：久留米市 久留米商工会議所) 美姿(びし)っと!ダンス and エクササイズ☆vol. 1 新井講師のアシスタント	講座内容： ・リンパストレッチ ・体幹トレーニング ・正しい姿勢のアライメント ・ダンスエクササイズ 等 会場：Ohana (久留米一番街)
11月22日	<久留米まちゼミアフター5> (主催：久留米商工 会議所 後援：久留米市 久留米商工会議所) 美姿(びし)っと!ダンス and エクササイズ☆vol. 2 新井講師のアシスタント	講座内容： ・リンパストレッチ ・体幹トレーニング ・正しい姿勢のアライメント ・ダンスエクササイズ 等 会場：Ohana (久留米一番街)
11月26日	<久留米まちゼミ Kids> (主催：久留米商工会議所 後援：久留米市 久留米商工会議所) ダンス and からだあそびワークショップ 実施	講座内容： 8月<久留米まちゼミ Kids>参照
11月～12月	<クリスマスマーケット in KURUME> ステージパフォーマンスに向けての準備	準備内容 ・上演内容の話し合い ・演目の練習 ・衣装の計画・準備 ・MC等進行の計画・練習 等
12月8日	平成29年度久留米市キラリ輝く市民活動活性化補助 金事業 採択決定	所管部署： 久留米市 健康福祉部 保健所地域保健課

活動日(時期)	活動内容	備考
12月16日	<クリスマスマーケット in KURUME> ステージパフォーマンス	上演内容： ・オープニング“ラインダンス”(新井振付) ・「ココ、カラダ。」続編披露 ・エンディング(学生振付) 会場：六角堂広場 久留米シティプラザ
12月～ 平成30年1月	「ココ、カラダ。」MV(ミュージック・ビデオ)第二弾及びダンス・ビデオ製作に向けた「ココ、カラダ。」全編の振付作業	
1月22日	「ココ、カラダ。」MV(ミュージック・ビデオ)第二弾及びダンス・ビデオ 撮影(1)	ロケ地：久留米信愛女学院短大構内 撮影：RANGE Picture 仲朝芳氏
1月23日	「ココ、カラダ。」MV(ミュージック・ビデオ)第二弾及びダンス・ビデオ 撮影(2)	ロケ地：久留米信愛女学院短大構内 撮影：RANGE Picture 仲朝芳氏
1月27日	<平成29年度幼児問題研究セミナー活動報告会>	発表内容： ・スライドによる今年度の活動報告 ・オープニング“ラインダンス”(新井振付) ・「ココ、カラダ。」続編披露
2月～3月	「ココ、カラダ。」MV第二弾及びダンス・ビデオ編集	
3月20日	「ココ、カラダ。」MV第二弾及びダンス・ビデオ公開	サイト： ・久留米信愛短期大学ホームページ ・YouTube

6. 学生の感想と考察

幼児問題研究セミナー活動報告会終了後に個人ワークとして、学生各々が以下の観点から今年度の取り組みについての感想・考察をまとめた。

①信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ」の振付や練習を通して感じ、考えた事。

②自分が参加した地域での活動を振り返って。

③1年間のセミナー活動全体を振り返って。

ここでは特に、「ココ、カラダ」の振付過程に関する発言に着目する。まず学生たちからは、活動そのものの「難しさ、大変さ」が挙げられた。元来ダンスやからだあそびが好きな者であっても、「言葉を動きで表現することは思っていたよりも難しく、中々スムーズに作っていくことは

できなかった」と述べており、それまでは与えられるものを与えられた形のまま習得し、そのことに楽しみを見出すという、比較的体験に終始しがちであったことが伺えた。本活動を通じ、「いざ自分たちでやってみるとなると、言葉の意味を理解した上でどういう動きで表現するか、どうすれば見ている人に伝わりやすいのかなど、頭を悩ませる部分が多々あり、難しかった」と述べ、「意味にとらわれ過ぎると伝わらない部分が出てきたり、その体の部位から遠のいたり、子どもも大人も踊れるように簡単に分かりやすくすることは難しい」こと、「言葉をそのまま目に見えるようにしただけで、慣用句の意味に触れることが出来ていないことや、誰でも無理せず踊ることができるというコンセプトから外れてしまうこと」等、身体表現の質に関わる気付きにも触れている。

しかし、そうした戸惑いも、共に創る時間の経過と共に、「この活動のおかげで仲間意識が高まって」いくことの実感へと変化した。最初は、「みんなの足を引っ張っていないか、ちゃんとしていけるかばかり気にして」いた学生も、「みんなが励ましてくれたので、そんな不安も忘れ」、よりよいものにしようとするみんなで見えを出し合うことの大切さを学び、大人数の中で意見を出すのが苦手だったが、その克服も」できた」と述べられていた。

そして、そのような活動ができた理由として、「みんなでアイデアを出しあったり、楽しい雰囲気の中でみんなで考える中で、“どんな表現をしてもいいんだ”と思える」環境づくりがあったと考察している。「恥ずかしいこともあるけど、体を動かしてみんなの前で発表して、反応を見るのは、小心者の私にとっては少し自信になった」や、「みんなで協力して取り組むことで、やったことがないことでも前向きに取り組むということ」を学んだ、といった感想が多く見られた。また「自分の考えが止まってしまったときに、メンバーが違う視点から言葉と動作を結び付けてくれたり、何気ない動作を振りにつなげることができるようにアイデアを出してくれたりと、一人では決してつくることができなかつた」との考察には、ダンスの振付を通じた協働性への気づきが表れている。

更に、こうした学生たちの実感は、本活動に留まらず広がりをもつものであった。「誰かを笑顔にすることの大切さを感じ、この経験を保育者となって子どもたちに保育をする際には、大切にしていきたい」、「自分の楽しむ姿を子どもたちは見ていると思うので、自分も心から楽しんで取り組むようにしたい」「“楽しいこと”“わくわくすること”は待てばやってくるのではなく、自分たちがつくる立場になる」といった言葉からは、本活動を通じて学生たちに、深い主体性が培われたことが読み取れた。これらは、インタラクティブなダンスの体験によりもたらされた実感であると同時に、アクティブ・ラーニングの環境づくりによって支えられた学びであることも推察される。

以上を概観すると、「ココ、カラダ。」の制作活動、特に振付プロセスは、「とても多くのことを学び、保育者としても、人としても大きく成長できたのではないかと思う。」と述べる学生の言葉が示す通り、主体性と協働性を体験的に学ぶに当たり、一定の効果を持つことが示唆された。

7. まとめ

筆者はセミナー（ゼミ）の活動は、学生一人ひとりが自分自身と向き合う濃密な時間であってほしいと願っている。人生の中で、このように贅沢な時間の使い方は、そうそうできるものではないからだ。答えのない問いを自ら立て、自分なりの方法で追及していく。学生時代ならではの「一見不毛なそうした時間によって、人は自分なりの方法や表現を耕すことができるし、とりわけコミュニティダンスは、他者との豊かな心身の関わり合いの中で学びを深める姿勢を培うものと考えられる。

今「アクティブ・ラーニング」や「新しい学力」などという文脈で、様々な教育改革が叫ばれているが、学生も教員も、目や足を外に向け「アクティブ」に動き出す前に、しなければならないことがあるように感じる。それは、無闇に動き回らず、内観すること。ダンスの振付プロセスにおいて、「振り起こし」や「振り出し」の段階が、それに当たると言えるだろう。自分の中にあるものとないものを改めて感じ分け、弁え、ないものを受け容れあったり、共にアイデアを膨らませていける人々との関係性を丁寧に構築する。そんなある意味地味な作業が、コミュニティダンスの醍醐味につながり、学生のソーシャル・インクルージョンへの意識を高める上で有効であることを示唆し、本稿のまとめとする。

8. 今後の課題

本プロジェクトは平成 29 年度「久留米市キラリ輝く市民活動活性化補助金事業」として、助成

期間の終了と共に一つの区切りを迎えるが、今年度の成果とそれにより得られた関係性を活かし、更に発展的な継続が見込まれる。本稿では2年目となる平成 29 年度の活動概要のまとめと考察を行ったが、今後も本プロジェクトの進行を軸に研究を深め、参加者の意識については更に精緻な分析を進めたい。そしてコミュニティダンスが学生たちのアクティブ・ラーニング、インクルーシブ教育にとってどのような効果をもたらすのか、引き続き検証を続けたい。

謝辞

平成 29 年 3 月 20 日、久留米市様・久留米市協働推進部協働推進課様・健康福祉部保健所地域保健課様のご理解ご協力の下「ココ、カラダ。」ミュージック・ビデオ第 2 段とダンス・ビデオが完成し、Web 上でも公開されました。再生回数の上昇と共に、市民のみなさまの関心を肌で感じるどころです。まだまだ活動歴の浅い私たちの取り組みを、様々な角度から見守り支えてくださっている皆様へ、心から感謝を申し上げますとともに、今後ともあたたかいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主要参考文献

- 註¹⁾NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network ホームページ <<http://jcdn-school.blogspot.jp/?m=1>>
- 註³⁾久留米信愛短期大学ホームページ『「Project HOTMIX」とは「ココ、カラダ。」とは』
歌詞:<www.kurume-shinai.ac.jp/college/chiiki/hotmix>
- 註⁴⁾久留米信愛短期大学ホームページ『「Project HOTMIX」とは「ココ、カラダ。」とは』
音源:<www.kurume-shinai.ac.jp/college/chiiki/hotmix>
- 註⁵⁾YouTube 「ココ、カラダ。」【ミュージックビデオ・第 2 弾】<<https://youtu.be/XZbr8BWuiFY>>
- 註⁶⁾YouTube 「ココ、カラダ。」【ミュージックビデオ・第 1 弾】<https://www.youtube.com/watch?v=_FVDWBC-D1Y>
- 註⁷⁾YouTube 「ココ、カラダ。」【ダンスビデオ】(全編収録・振付解説付き)<<https://youtu.be/-6ssYwLitO0>>

(2018 年 3 月 30 日受稿)